

B101900M2170YCTV 10
 機番: 記事広1 時刻: 2021/10/13 10:11:33
 端末: T-TKUM233 縮率: 79.0倍×177.5倍
 エラー:

10月19日 K 1

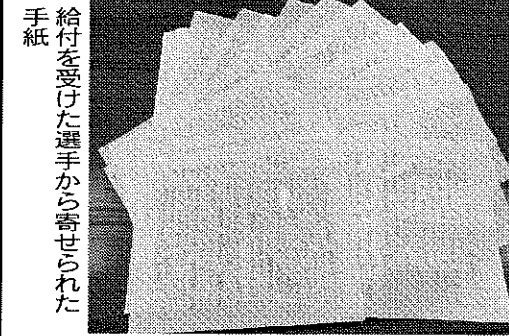
面 東京作業版 版

全5段

ジャンル:
ラベル:

種目:

今季からポニー・スポンサーの大倉「サプライ用品給付制度」もスタート



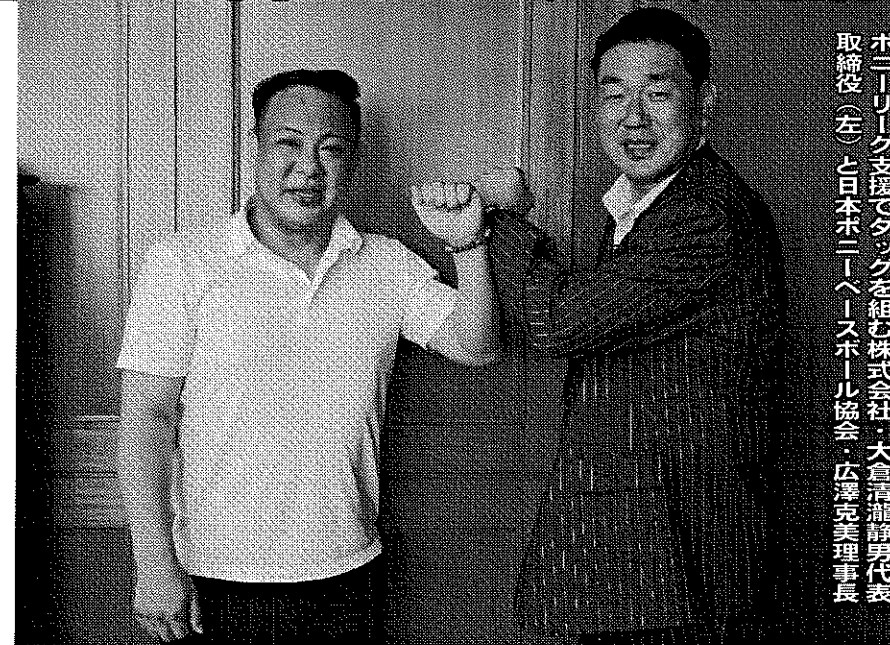
給付を受けた選手から寄せられた手紙

「今年度はどれぐらいの申し込みがあったのでしょうか。200人以上あります。給付を受けた選手から作文が届いています。で、何らかの形で発表できればと考えています。」

「野球人口が急激に減っているというのも、道具にお金がかかりすぎることも大きいと思うんです。これはメーカさんの協力も必要になります。給付するクラブやスパイクに、例えば弊社のブランド「HESTA」のロゴマークを入れることはできないかと考えています。宣伝効果も上がります。選手たちは企業の支援によって野球ができています。さらに経済の仕組みを学ぶきっかけにもなる。他の地元企業にも同じように支援に乗り出してほしい。私は将来的に野球を東南アジアへ広めたいと考えています。そうすれば企業支援

申し込みは200人以上

「今年度から「大倉グループプレゼンツサプライ用品給付制度」がスタートしました。この制度、実は清瀧さんの発案なんです。昨年、広澤理事長はじめ関係者と話していた時に、道具が高くて買えず野球が続けられない子どもたちがいると聞きました。何とかしなければいけないと思い、この制度を広澤さんへ提案した



ポニーリーグ支店を営む株式会社・大倉清瀧静男代表取締役(左)と日本ポニーベースボール協会・広澤克実理事長

「今年度はどれぐらいの申し込みがあったのでしょうか。200人以上あります。給付を受けた選手から作文が届いています。で、何らかの形で発表できればと考えています。」

「野球人口が急激に減っているというのも、道具にお金がかかりすぎることも大きいと思うんです。これはメーカさんの協力も必要になります。給付するクラブやスパイクに、例えば弊社のブランド「HESTA」のロゴマークを入れることはできないかと考えています。宣伝効果も上がります。選手たちは企業の支援によって野球ができています。さらに経済の仕組みを学ぶきっかけにもなる。他の地元企業にも同じように支援に乗り出してほしい。私は将来的に野球を東南アジアへ広めたいと考えています。そうすれば企業支援

清瀧がポニーリーグにメッセージ

「頑張っているポニーリーグの皆さんにメッセージをお願いします」

「野球が全てではないんだよ、ということですね。野球にポジションがあるように、人にもそれぞれ役割があるわけです。勝ったとか負けたりとか、打ったとか打てなかったとか、そのうちの方が大事。自分の役割分担があるんだ、ということを高校入学前に理解していれば、3年間の過ごし方も変わってくると思います。」

◆清瀧静男(きよたき・しずお) 1975年(昭和50)7月20日生まれ。和歌山県出身。小1から野球を始め、近大付(大阪)時代は俊足好打の中堅手として鳴らし、2年夏と3年夏の2度甲子園に出場。3年時には主将としてチームを引っ張った。社会人野球の新日鉄堺・新日鉄君津・ミキハウスでプレーした後、2008年、大倉入社。13年に代表取締役CEO兼COOに就任した。

SSK野球用品券

今年度創設された「大倉グループプレゼンツポニーファミリーサプライ用品給付制度」で、日本学生支援機構の給付奨学金制度に定められる家計基準の対象選手は、協会に申請するとSSKのグラブ、スパイク(写真)などと引き換えられる野球用品券が支給される。

このほか「大倉グループプレゼンツ全日本コルト選手権」なども開催している。会場に設置された「HESTA AIセキュリティゲート」も同社の製品。ポニーは最近2年間、大会での感染者を1人も出していない。防止策の根幹を大倉グループが支えている。



「自分の役割分担理解」

プロ野球が行われている球場でプレーできるといふのは、選手にとってすごくうれしいことです。素晴らしいです。」

「他の団体からもうらやましがられていると聞きます。実現できて本当によかったと思います。」



新型コロナウイルス対策のため、会場入口では大倉の「HESTA AIセキュリティゲート」を使って健康状態をチェック

甲子園2度出場の清瀧静男CEOと広澤理事長対談

戸建住宅や分譲マンションの提供、リゾート開発、会員制リゾートクラブの運営などで業績を伸ばしている株式会社大倉が、今年からスポンサーとしてポニーを支援している。同社・清瀧静男代表取締役CEO(兼COO)と、日本ポニーベースボール協会・広澤克実理事長(59)との対談で野球に対する熱い思い、今後の支援、中学球児へのメッセージなどを語ってもらった。